

7. 文献表の書き方

文献表の書き方にはたくさんの種類があります。ここでは、初学者向けの一例を紹介します。

注意事項

- ▶ 1つのレポートでは、必ず1つの書き方のみを採用し、それを厳守しなければなりません。
- ▶ 以下とは異なる書き方を授業で指定された場合は、それに従いましょう。

文献表の基本ルール

- ▶ 文献表は本文がすべて終わった後につけます。
- ▶ インターネットで入手した資料など、本や論文以外の資料の出典も、文献表に書きます。
- ▶ 日本語文献と英語文献を両方使う場合は、右記のようにそれぞれ分けて書きます。
- ▶ 1つの文献の情報が2行以上になる場合は、2行目以降を全角スペース2つ分下げます(日・英共通)。

引用・参考文献
〔日本語文献〕

〔英語文献〕

文献を並べる順番

- ▶ 日本語文献は、著者の名字の五十音順に並べます。
- ▶ 英語文献は、著者の名字(ラストネーム)のアルファベット順に並べます。
- ▶ 名字が同じ著者は、日本語文献なら名前の五十音順、英語文献なら名前(ファーストネーム)のアルファベット順に並べます。
- ▶ 著者が複数いる場合は、一人目の著者の氏名で順番を判断します(日・英共通)。
- ▶ 同じ著者の複数の文献を用いた時は、発行年が古いものから先に並べます(日・英共通)。

日本語文献の書誌情報の書き方

- ▶ 文献表を書く際に必要な著者名、発行年、発行所名等の情報(これらを書誌情報といいます)は、本の最後尾付近にある奥付(おくづけ)と呼ばれる部分に書かれています。

● 単行本

著者の氏名、発行年、『本のタイトル』、発行所名。

例 浅羽通明、1996、『大学で何を学ぶか』、幻冬舎。

● 単行本の中の論文や章

著者の氏名、発行年、「論文・章のタイトル」、『本のタイトル』、編者の氏名、発行所名、開始ページー終了ページ。

例 申崎真志、2002、「学生生活と無気力論」、『大学生論ー戦後大学生論の系譜をふまえてー』、溝上慎一編、ナカニシヤ出版、67-84。

※「第4章」等、章番号を書く必要はありません。また、編者の氏名に続けて「編」と書きます。なお、各項目の執筆者が明記されている事典等から引用・参考した場合は、その項目の執筆者の氏名と項目名を用いて、単行本の中の論文や章と同様に書きます。

例 上野千鶴子、2006、「フェミニズム」、『縮刷版』社会学事典、見田宗介・栗原彬・田中義久編、弘文堂、755。

● 雑誌論文・雑誌記事

著者の氏名、発行年、「論文・記事のタイトル」、『雑誌のタイトル』、巻号数、開始ページー終了ページ。

例 松本茂・山本裕子・橋場論、2010、「アドミッション・ポリシーの現状と課題に関する考察ー円滑な高大接続を目指して」、『立教ビジネスレビュー』、第3号、122-135。

※著者が複数人の場合は、この例のように「・」でつなぎます。単行本等の場合も同じです。本文中の文献対照注は「(松本・山本・橋場 2010、133)」のように表記します。巻号数は雑誌によって色々な表記がなされます。「第〇巻第〇号」や「〇月号」など、その雑誌の表記に従って書きます。

● 翻訳書

著者の名字、著者の名前[□]著者のミドルネーム、発行年、『本のタイトル』(翻訳者氏名)、発行所名。

□の位置には半角スペースを1つ入れます。

例 ボイヤー、E. L.、1996、『大学教授職の使命ースカラシップ再考』(有本章訳)、玉川大学出版部。

※ミドルネームはなければ書く必要はありません。名前とミドルネームをイニシャルにするかどうかは奥付(奥付に記載がなければ表紙)の表記に従います。また、訳者の氏名に続けて「訳」と書きます。

● 新聞記事 著者の氏名、発行年、「記事のタイトル」、「新聞名」、朝夕刊、発行年月日、掲載面。

例 菅原啄、2012、「停滞は参院のせいなのか」、「朝日新聞」、朝刊、2012年2月23日、19面。

● インターネット上に公表されている文書

① 報告書等の文書 著者の氏名や機関名、発行年、「文書のタイトル」、URL (アクセス年月日)。

例 国土交通省総合政策局観光企画課、2005、「我が国の観光統計の整備に関する調査報告書」、
http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha05/01/010819/01.pdf (2015年12月21日アクセス)。

※インターネット上の情報は更新されることがあります。画面の保存や印刷を忘れずに行い、いつでも情報を確認できるようにしておきましょう。

② 雑誌論文・雑誌記事

例 中野聡、2010、「アメリカ史研究の現状と課題」、「立教アメリカンスタディーズ」、第32号、9-20、
http://www.rikkyo.ac.jp/research/laboratory/IAS/ras/32/nakano.pdf (2015年12月21日アクセス)。

※著者名からページ数までは、前ページで紹介した雑誌論文・雑誌記事の書き方と同じです。ページ数の後ろに、例のようにURLとアクセス年月日を明記します。

英語文献の書誌情報の書き方

▶ すべて半角英数字で書きます。

▶ 英語文献の書誌情報は、本の冒頭付近(通常、中表紙の次のページ)にまとめて記載されています。このページはcopyright pageと呼ばれます。

● 単行本

著者の名字、著者の名前著者のミドルネームのイニシャル、発行年、本のタイトル、発行地、発行社名。

例 Thelin, John R. 2004. *A History of American Higher Education* Baltimore: The Johns Hopkins University Press.

※ミドルネームはなければ書く必要はありません(以下同じ)。発行年を、ミドルネームのイニシャルに続けて書くときは、「R..」とピリオドが2つ続かないように、ピリオドは1つにします。

の位置には半角スペースを1つ入れます。

● 単行本の中の論文や章

著者の名字、著者の名前著者のミドルネームのイニシャル、発行年、“論文や章のタイトル。” In 本のタイトル、edited by 編者名、開始ページ-終了ページ、発行地、発行社名。

例 Bourn, Douglas. 2010. “Students as Global Citizens.” In *Internationalisation and the Student Voice: Higher Education Perspectives*, edited by Elspeth Jones, 18-29. New York: Routledge.

※本のタイトルに副題がある場合は、この例のように「:」をつけて書きます(論文タイトルも同じ)。

の位置には半角スペースを1つ入れます。

● 雑誌論文・雑誌記事

著者の名字、著者の名前著者のミドルネームのイニシャル、発行年、“論文のタイトル。” 雑誌のタイトル 巻号数:
開始ページ-終了ページ。

例 Brint, Steven, Allison M. Cantwell, and Robert A. Hanneman. 2008. “The Two Cultures of Undergraduate Academic Engagement.” *Research in Higher Education* 49: 383-402.

※この例の論文には著者が3人います。名字を前に出さなければならないのは、一人目の著者だけです。著者が3人以上の場合は、このように著者名を「,」で区切って並べますが、最後の著者の直前のみ「,and」と書きます。著者が2人の場合は、「and」のみを用いて著者名を併記します。いずれの場合も、著者の順番は変えてはいけません。また、雑誌によっては1つの巻(volume)を、さらに細かく月や季節で分けているものがあります。例えば、Volume8, No.4という巻号数であれば「8(4)」と書きます。

の位置には半角スペースを1つ入れます。

英語文献を用いる際の文献対照注の書き方
(半角英数字を使用)

引用の場合:(著者の名字 発行年、ページ)
参考の場合:(著者の名字 発行年)

の位置には半角スペースを1つ入れます。

英語文献についての上記の書き方は、シカゴ大学のスタイルガイドを参考に作成しています。

The University of Chicago. 2010. *The Chicago Manual of Style 16th Edition*. Chicago: The University of Chicago Press.